

高齢者運転事故急増**地域公共交通が不可欠**

路線バス廃止などで移動手段がなく、運転を続ける高齢者が増えています。切実なのは、病院への通院と日常生活に必要な物の買い物をどうするかです。県内でも多くの自治体が公共交通を実施しており、未実施は茨城町も含め4自治体だけ。市町村の枠を超えて広域で公共交通

を実施する地域も増えています。茨城町民は通院や買い物で近隣市町村を利用する人も多く、広域での公共交通の実施が必要ではないか。お年寄りにタクシーの初乗り料金を支援する福祉タクシー券を年間一人当たり24枚発行していますが不十分。枚数を増やしていただきたい。

調査・検討を進める

真家 誠町長公室長

地域公共交通事業は利用者の減少等に伴う維持運営費の増加などにより事業内容を見直す市町村も見受けられるが、ますます高齢化が進展し、高齢者等の交通手段の確保は、いっそう重要となります。公共交通体系の構築に向け、圏域内市町村及び交通事業者と連携し協議を進めるとともに、地域公共交通検討委員会において調査・検討を進

めていきます。高齢者福祉タクシー事業の利用者への助成のあり方については、現在の利用状況を踏まえ、同委員会において協議してまいります。

急いで具体化を

川澄町議は「町民の方から一番多く寄せられる要望が、お年寄りの移動手段の確保についてです。具体化を急いでいただきたい。実現までの間は、福祉タクシー券の枚数を増やすこと」を重ねて要望しました。

「20年運転延長」断念を**東海第2原発**

来年11月に運転開始から満40年を迎える東海第二原発。原電は20年運転延長しようとしており、申請期間は、今年8月から11月。今年8月からは重大な決定を迫られる年です。

難計画策定の困難さを考えても、住民の安全を守る立場の町長として規制委員会の審査結果を待つことなく、「20年運転延長は容認できない」という態度を明らかにしていただきたい。

「30キロ圏内百万人」は異常

酒井和二副町長

東海村他5市で組織する原子力所在地域首長懇談会では、運転再開に係る事前了解の権限を拡大する要求をしていましたが、回答は求めてきた趣旨とは大きく隔たりがあり、失望極まりなもの。15市町村で構成する首長会議においても、自治体の思いを軽視した内容で看過できないものとして、原電に対し真摯に取り組みよう強く再要求を行ったところ。30キロ圏内に百万人近い人が住んでいるという地域は全国に数十か所ある原発

町民に説明が必要

川澄町議は、「避難計画が義務づけられている30キロ圏内の市町も、安全協定の締結について同等に扱わすべきですが、当面、20キロ圏内の6市村ということでも、実現できれば意義は大きいので、首長さんたちの取り組みを支持します。問題は、こういう動きがマスコミでは伝えらるが、町長の考えや原電の態度などが町民に対して説明されていないこと。町民に知らせ理解してもらわなければならない」と、小林町長の見解を求めました。

住民の安全が最優先

小林宣夫町長

原電から示された回答では、ほとんど進展が見られず、2月24日に、原電の説明を受けなが

めていきます。高齢者福祉タクシー事業の利用者への助成のあり方については、現在の利用状況を踏まえ、同委員会において協議してまいります。

原子力事故想定避難訓練 沼前幼稚園

地震などの避難訓練は色々な

所でおこなわれていますが、沼前幼稚園では原子力事故を想定した避難訓練を実施したと聞き、動機や訓練内容について、両谷正明園長にお聞きしました。6年前の福島第一原発事故での福島の人々の避難の現状を見るにつけ、子どもたちにもしっかり知識を持ってほしいと考えたとのこと。前任の大戸小学校や大戸幼稚園で実施した経験から、沼前幼稚園でも実施する計画を立てたそうです。先生たちで綿密に計画と打ち合わせを行い、保護者にも内容を知らせ、着替えを用意していただくなど

協力をお願いしたとのこと。外で遊んでいた子どもたちを室内へ避難させ、衣服を脱いで回収し、タオルで除染。あらかじめ用意していた衣服に着替えなど本格的な訓練となりました。子どもたちには、「放射線は、目に見えないし、においもないきわめて危険なものだ」ということをよく話し、先生たちも役割分担しながら実施したそうです。保護者からも好評で、「自分たちも参加したかった」という声もあつたそうです。

石岡市に子ども図書館が開館

小さい子ども連れのお母さんたちには、通常の図書館を利用しづらいのがあります。子どもが泣いたり騒いだりすると、利用者から苦情が出るからです。4月1日に開館した石岡市立こども図書館は、県内初の絵本や子どもの本などの書棚が並び、奥にはじゅうたんを敷いた部屋があり、おはなし会を開いたり、子どもたちが寝



転んで本を読めるスペースとなつています。全体的に明るいうららかな環境が工夫されていました。茨城町立図書館にも、じゅうたんを敷いた子ども用の本のコーナーがあり、おはなしの部屋もございます。しかし、大人の本棚とつながっている子どもたちの声が響かないよう、遠慮してしまうのです。石岡市のような子ども図書館があったら、視察しながら思いました。